

が大きく彫りが深い。31は銘文に「阿弥陀仏」とあり、水輪の上下端部にはノミによる敲打痕が明瞭に残る。32は水輪高が低く、梵字の彫りが深い。33は埋込式で、火輪の一部を欠く以外は完存している。地輪は地表面上において高さと同幅がほぼ同じであり、水輪は最大径が中央よりやや上に位置する。火輪は屋根中央付近で稜が認められ、風輪幅は空輪幅よりも広い。34～37は柄式である。34は小型品であり、水輪の横断面形が隅丸方形で、地輪の正面右側には「了祐」という法名のみが刻まれている。35は地輪の背面が欠けているものの、それ以外の遺存状態は良い。水輪は中央が突出する算盤玉形を呈し、火輪は屋根から軒口までの間に明瞭な稜を有する。空風輪はいずれも扁平で、風輪幅は空輪幅よりも広い。36は風輪上半が欠落している。水輪は中央が突出する算盤玉形を呈し、火輪の軒口は両端の反り上がりが顕著で、風輪側辺は直線的である。37は逆修塔で、小型品である。水輪が扁平で、火輪の軒口の両端は直角に近い角度で反り上がっている。30・35～37は各輪の正面に発心門の梵字を陰刻し、31・32は各輪の四面に発心門、修行門、菩提門、涅槃門の梵字を陰刻する。38・39は柄式の一石五輪塔の未成品である。いずれも柄上端の径が広く、仕上げ段階まで至っていない。また、28～37の製品と比較すると、石塔表面の剥落が進行しているような印象を受ける。38は火輪から上が折れており、39は空風輪の一部が欠けている。39は地輪の一面が未調整で丸みを帯びており、水輪上下端のくびれが浅いことから、粗作りの段階で廃棄されたと考えられる。40は一石で造られた大型の五輪塔である。地輪は扁平で、水輪はやや歪んでいるもののほぼ球形を呈し、そ

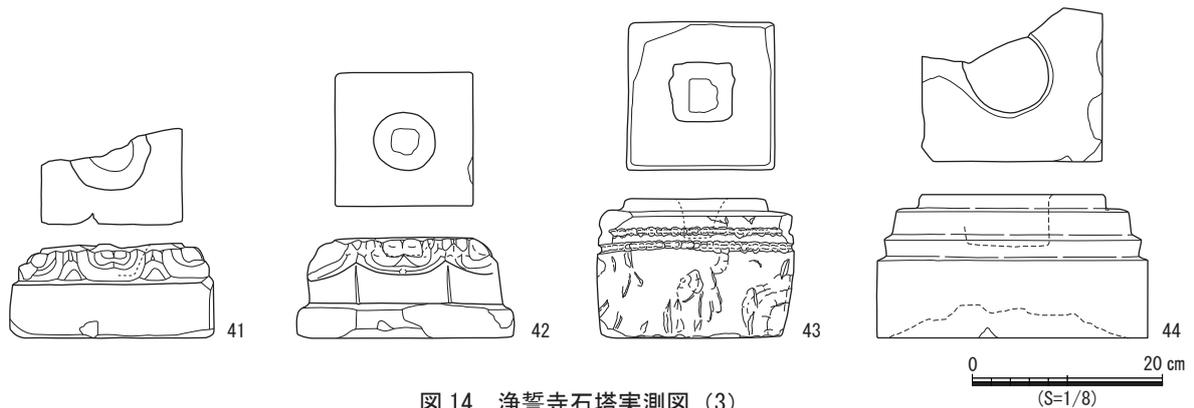


図14 浄誓寺石塔実測図(3)



写真3 浄誓寺石塔

の横断面形は円形である。地輪下には地中に埋め込まれていた部分である長さ約 22 cm の未調整の部位があり（写真 3 中央右上）、その底面には自然面が認められ（同右下）、地輪との境にはノミによる連続した敲打痕が残る。また、他の砂岩製一石五輪塔と異なり、白色粒が目立つ石材を使用している。41～44 は台座である。41・42 は反花座であり、上段には各面中央と四隅に複弁を計八葉飾り、その間に間弁を刻出し、その上に方形座を設ける。42 は反花座の下に高さ約 3.6 cm の基壇とも言うべき扁平な部位を有する。43 は上段に敲打によって施された 2 条の線が残り、方形座の中央には方形の柄孔がある。44 は大型の台座で、柄穴も大きく深い。

明台寺（大垣市墨俣町墨俣）

明台寺は墨俣町墨俣字上宿に創建され、江戸時代になって現在の寺町に移転した。当初は真言宗であったが、後に浄土宗に改宗した（墨俣町役場 1956）。明台寺が創建された字上宿付近には、室町時代以前の主要街道である鎌倉街道の宿場町があったとされ、当地は長良川の渡河地点でもあり、交通の要衝であった。なお、明台寺の境内墓地には複数の宝篋印塔や組合せ式五輪塔、一石五輪塔などの石塔が散在しており、そのうち一石五輪塔 3 基を図示した（図 15）。

45・46 は安置式で、地輪が縦長である。水輪の横断面形は 45 が円形、46 が隅丸方形であり、46 は梵字周辺のみ平坦に成形している。火輪はいずれも軒上辺が直線的で、両端に向って緩やかに反り上がり、軒下辺も両端でわずかに反り上がる。なお、45 の地輪底面には自然面が残る。47 は柄式であり、地輪は横長で、柄径が 8.2 cm と太い。水輪は中央が突出し、火輪は軒上辺中央が直線的で両端に向って緩やかに反り上がり、屋弛みも緩やかである。空風輪は、空輪径よりも風輪径が大きい。なお、45～47 はいずれも発心門、修行門、菩提門、涅槃門の梵字を各輪の四面に陰刻しており、47 には美濃守護代斎藤利藤の養子である斎藤利為の法名が刻まれている（横山 1996）。

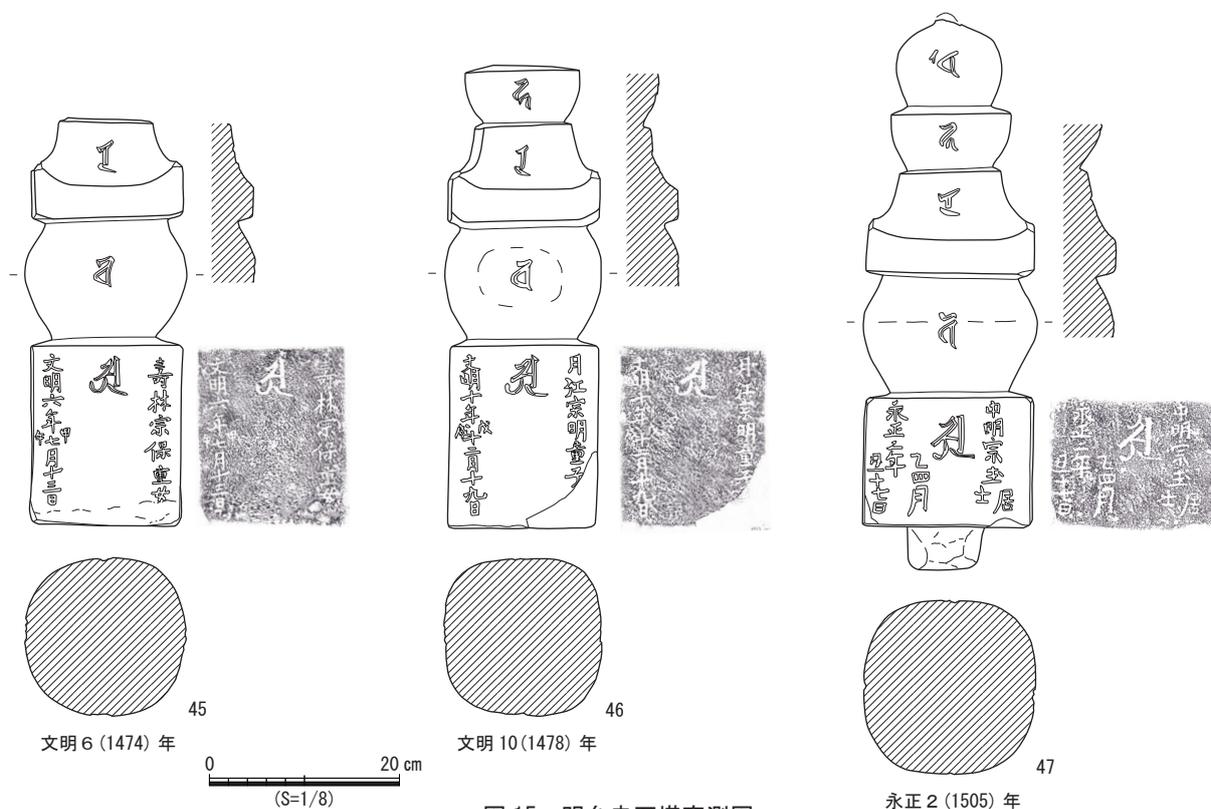


図 15 明台寺石塔実測図

表1 一石五輪塔・台座の大きさ等

No.	所在地	分類	大きさ(※)			梵字位置	銘文 西暦	銘文
			a	b	c			
1	祖宝寺跡	安置式	21.0	36.9	90.6	一面	1630	為権大僧都□□(榮カ)□□/(梵字)/寛永七年二月十一日
2	祖宝寺跡	安置式	13.6	17.0	55.0	空輪ニア	1656	明暦二丙年/権少僧都□(快カ)宥□(靈カ)位/□(正カ)月廿四日
3	祖宝寺跡	安置式	17.0	27.0	76.0	一面	1672	寛文十二壬子天/為大法師頼真/十月初七日
4	祖宝寺跡	安置式	27.5	27.5	92.0	一面	1693	元禄六年壬□(西カ)/(梵字)/権大僧/都俊榮/九月初一日
5	祖宝寺跡	安置式	20.6	29.0	83.0	一面	1699	元禄十二巳卯年/(梵字)法印雄榮/九月九日
6	松尾山麓麿寺	柄式	12.5	13.8	-	-	1578	光室宗本/天正六□/二月廿八日
7	松尾山麓麿寺	台座	17.4	-	10.0	-	-	-
8	宝聚院	埋込式	13.2	12.1	40.4	-	1448	妙現禪尼/文安五年□(四カ)月六日
9	宝聚院	埋込式	13.6	11.9	45.8	-	1505	妙壽/永正二四月廿四
10	宝聚院	埋込式	12.8	11.5	39.9	-	1508	栄明禪尼/□(永カ)正五五月十一日
11	宝聚院	埋込式	13.4	12.3	-	-	1525	道□禪定門/大永五年
12	宝聚院	埋込式	16.6	13.3	-	-	1531	鉄岳常/金禪定門/享禄四年/七□(月カ)八日
13	宝聚院	柄式	13.6	13.1	45.6	-	1564	永禄七甲子/妙桂禪定尼/六月二□(日カ)
14	宝聚院	埋込式	15.0	15.4	50.1	一面	1575	妙壽禪尼/(梵字)/天正三年九月九日
15	宝聚院	埋込式	11.4	12.0	40.3	-	1578	天正六年/浄法禪定門/□(二カ)月四日
16	宝聚院	埋込式	13.0	13.5	48.1	一面	1580	西念禪定門/(梵字)/天正八年三月/十一日
17	宝聚院	埋込式	10.4	11.5	31.8	-	1586	□立童子/天正十四十一/□(月カ)廿九日
18	宝聚院	埋込式	9.6	11.3	-	-	1586	如音禪/定尼/天正十四十一
19	宝聚院	柄式	14.2	13.2	48.1	一面	1589	茂庵盛禪師/(梵字)/天正十七二月
20	宝聚院	柄式	12.0	14.3	-	一面	1591	環琳宗仙/(梵字)禪定門/天正十九辛卯/五月一日
21	宝聚院	安置式	13.2	18.9	52.7	-	1656	圓寂棟叔梁公首座禪師
22	天喜寺跡	埋込式	17.0	14.8	-	-	1471	心月妙喜/文明三辛卯七月四日
23	大通寺	埋込式	15.9	15.1	-	-	1515	道□(因カ)定門/永正十二天/一月二十日
24	大通寺	不明	13.4	12.6	46.8	一面	1516	宗慶/永正十三/(梵字)/七月四日
25	大通寺	台座	25.2	-	15.4	-	-	上面幅25.2cm、奥行24.4cm
26	西光寺跡	柄式	16.9	14.7	54.5	四面	1571	[] 禪□(定カ)門/(梵字)/元龜二年/□月四日
27	西光寺跡	安置式	18.5	23.5	66.0	-	1627	寛永四年/長阿大居士/八月二十七日
28	浄誓寺	埋込式	14.9	11.8	-	-	1497	妙幸廿六日/明應丁巳正月
29	浄誓寺	埋込式	12.9	11.6	-	-	1505	□(因カ)道禪門/永正二年五月廿一日
30	浄誓寺	埋込式	12.2	13.2	-	一面	1511	□□(長カ)禪門/(梵字)/永正八年九月十一日
31	浄誓寺	埋込式	15.9	15.2	-	四面	1511	幸阿弥陀佛/(梵字)/永正八正月六□(日カ)
32	浄誓寺	柄式	14.2	14.5	-	四面	1533	禪□(隆カ)禪門靈□/(梵字)/天文二年十月十三日
33	浄誓寺	埋込式	15.6	13.1	47.9	-	1543	□秀大徳/天文十二年/九月八日
34	浄誓寺	柄式	12.0	12.1	-	-	1548	了祐/天文十七/五月廿二
35	浄誓寺	柄式	15.9	16.5	52.5	一面	1574	宋心禪定門/(梵字)/天正二年
36	浄誓寺	柄式	13.5	14.7	-	一面	1579	妙林禪定尼/(梵字)/天正七年七月□日
37	浄誓寺	柄式	12.4	12.7	-	一面	1589	貞憲□□/(梵字)逆修/天正十七八月時正
38	浄誓寺	柄式未成品	14.3	13.0	-	-	-	-
39	浄誓寺	柄式未成品	17.4	16.1	-	-	-	-
40	浄誓寺	埋込式	25.3	15.8	-	-	-	-
41	浄誓寺	台座	21.4	14.9	10.1	-	-	-
42	浄誓寺	台座	23.0	14.5	10.7	-	-	-
43	浄誓寺	台座	20.7	14.7	14.8	-	-	-
44	浄誓寺	台座	28.5	19.0	15.2	-	-	-
45	明台寺	安置式	15.7	19.0	-	四面	1474	壽林宗保童女/(梵字)/文明六年甲午七月十三日
46	明台寺	安置式	15.6	19.3	-	四面	1478	月江宗明童子/(梵字)/文明十年戊戌十二月十九日
47	明台寺	柄式	17.4	13.8	53.5	四面	1505	申明宗玉居士/(梵字)/永正二年乙丑四月十七日

※ 大きさa:一石五輪塔の地輪幅、台座の最大幅
 大きさb:一石五輪塔の地輪高(地表面上に見えている高さ)、台座上面の方形座幅
 大きさc:一石五輪塔高(地表面上に見えている高さ)、台座高

3 属性分類と消長

次に、図示した砂岩製一石五輪塔の各部位を形や大きさなどの観点から分類し（図16～20、表2）、その消長について検討する（表3）。

(1) 地輪

地表面上にみえる縦横比について、以下のように分類した。

A類 横長（幅が広い）。

B類 縦長（縦／横が1.25未満）。

C類 縦長（縦／横が1.25以上）。

埋込式と柄式はA類とB類、安置式はB類とC類があり、埋込式は16世紀中葉までA類が多く、16世紀後葉にはB類が主体となる。柄式は確認できた数が少ないものの、16世紀前葉には出現しており、同後葉にはB類が主体となっている。安置式は15世紀後葉にB類が確認できるものの、その数は少なく、17世紀になると中世段階よりもさらに高い縦長のC類が多くなる。

(2) 水輪

正面観、横断面形、火輪との高さの比率について、以下のように分類した。

①正面観

A類 球形。最大径は中央付近、若しくは中央よりやや上に位置する。

B類 壺形。最大径は中央より上に位置し、肩が張る。

C類 算盤玉形。最大径が中央付近にあり、突出する。

D類 樽形。上下のくびれが少ない。

E類 その他。側辺が直線的となる。

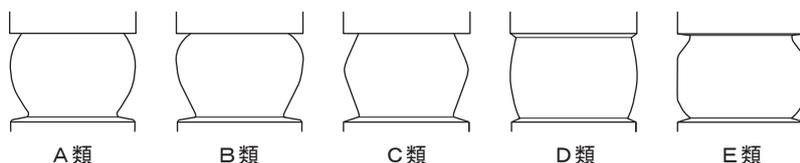


図16 水輪正面観の属性

②横断面形

a類 円形。

b類 隅丸方形（直線部分がおよそ半分以下）。

c類 隅丸方形（直線部分がおよそ半分以下）。

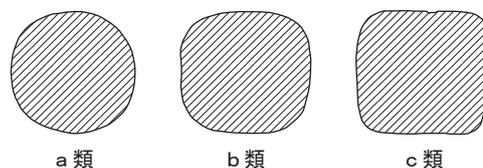


図17 水輪横断面形の属性

③水輪高と火輪高の比

1類 水輪高／火輪高が1.0以上（水輪が火輪よりも高い）。

2類 水輪高／火輪高が1.0未満（水輪が火輪よりも低い）。

正面観は、主にA類（球形）→B類（壺形）→C類（算盤玉形）→D類（樽形）と変化し、16世紀前葉から中葉にはA類とB類の両者が混在し、17世紀前半にはE類が認められる。横断面形は16世紀末まではa類（円形）→b類（隅丸方形）→c類（隅丸方形）と変化し、a類は初期の一石五輪塔のみに認められ、17世紀にはb類とc類が混在している。水輪高と火輪高の比では16世紀中葉までは1類が多いのに対し、16世紀後葉には2類が多くなり、この頃に水輪が扁平化したことがわかる。

しかし、17世紀になると再び1類が多くなる。

(3) 火輪

軒、屋弛み、隅棟について、以下のように分類した。

①軒

- A類 軒下辺は軒端が反り上がる。軒上辺中央は直線的で、軒端に向かって緩やかに反り上がる。
- B類 軒下辺は軒端まで直線的である。軒上辺中央は直線的で、軒端に向かって緩やかに反り上がる。
- C類 軒下辺は軒端まで直線的である。軒上辺中央は直線的で、軒端は三角形状に反り上がる。
- D類 軒下辺は軒端まで直線的である。軒上辺中央は直線的で、軒端は三角形状（若しくは直立気味）に高く（若しくは細く）反り上がる。
- E類 軒下辺は軒端まで直線的である。軒上辺中央から軒端に向かって緩やかに反り上がる。



図 18 火輪軒の属性

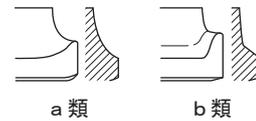


図 19 火輪屋弛みの属性

②屋弛み

- a類 滑らかに湾曲する。
- b類 屈曲（若しくは屈折）し、平面的に稜が生じる。

③隅棟

- 1類 火輪上辺まで延びる（火輪上面が方形）。
- 2類 風輪下方まで延びる。
- 3類 火輪上辺まで延びない（火輪上面が隅丸方形）。

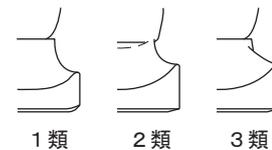


図 20 火輪隅棟の属性

軒は、15世紀中葉～後葉のみ下辺端が反り上がり（A類）、それ以降は下辺端まで直線的となる（B～E類）。また、B～E類の軒上辺は、中央の直線具合と軒端の形状から、主にC類→D類→E類へと変化し、B類は数が少ない。屋弛みは16世紀前葉まではa類が多いのに対し、16世紀中葉～後葉にはb類が多くなり、17世紀になると再びa類が多くなる。隅棟は中世段階において1類のみであり、17世紀前葉には2類が目立ち、17世紀中葉以降は1類と3類が混在する。

(4) 空風輪

空輪と風輪の高さと幅の比について、以下のように分類した。

①幅

- A類 空輪幅が風輪幅よりも狭い。
- B類 空輪幅が風輪幅よりも広い。

②高さ

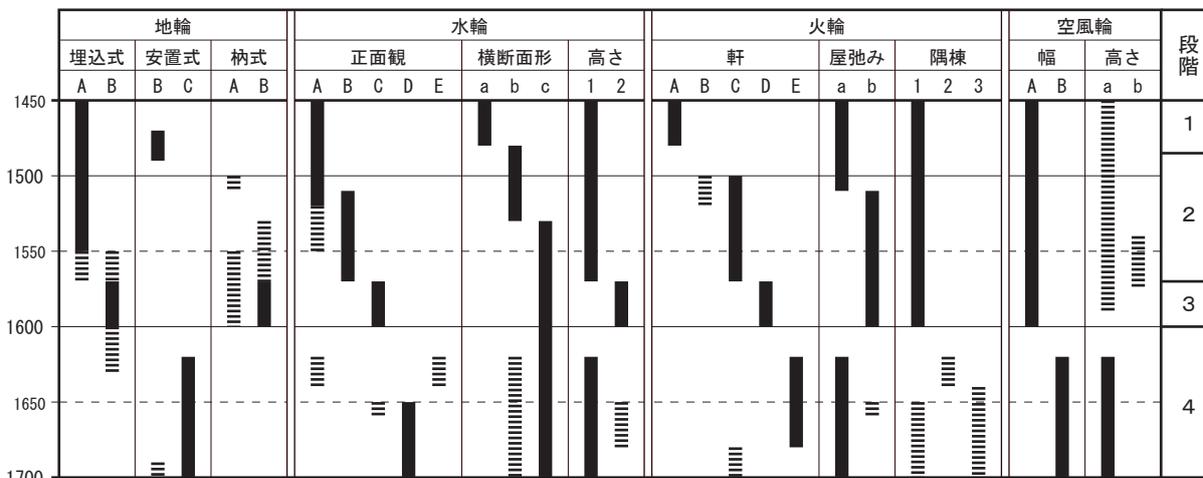
- a類 空風輪高／風輪幅が1.2以上。
- b類 空風輪高／風輪幅が1.2未満。

空風輪の幅は16世紀まではA類のみであるが、17世紀以降は空輪幅が肥大化し、B類が多くなる。一方、高さは空風輪が扁平化する16世紀中葉から後葉にかけてb類が存在し、それ以外の時期はa類が主体である。

表2 一石五輪塔の属性分類

No.	所在地	分類	銘文 西暦	地輪	水輪			火輪			空風輪	
					正面観	横断面形	高さ比	軒	屋弛み	隅棟	幅	高さ
8	宝聚院	埋込式	1448	A類	A類	a類	1類	A類	a類	1類	A類	a類
22	天壽寺跡	埋込式	1471	A類	A類	a類	1類	A類	a類	1類	-	-
45	明台寺	安置式	1474	B類	A類	a類	1類	A類	a類	1類	-	-
46	明台寺	安置式	1478	B類	A類	b類	1類	A類	a類	1類	-	-
28	浄誓寺	埋込式	1497	A類	A類	c類	1類	-	a類	1類	-	-
29	浄誓寺	埋込式	1505	A類	A類	b類	1類	C類	a類	1類	-	-
47	明台寺	柄式	1505	A類	C類	b類	1類	B類	a類	1類	A類	a類
9	宝聚院	埋込式	1505	A類	A類	b類	1類	C類	a類	1類	A類	a類
10	宝聚院	埋込式	1507	A類	A類	b類	1類	D類	a類	1類	A類	b類
30	浄誓寺	埋込式	1511	B類	A類	b類	-	C類	-	-	-	-
31	浄誓寺	埋込式	1511	A類	A類	b類	1類	C類	a類	1類	-	-
23	大通寺	埋込式	1515	A類	A類	b類	1類	C類	b類	1類	-	-
24	大通寺	不明	1516	A類	B類	b類	1類	B類	b類	1類	A類	a類
11	宝聚院	埋込式	1525	A類	B類	b類	1類	C類	b類	1類	-	-
12	宝聚院	埋込式	1531	A類	B類	b類	1類	C類	b類	1類	-	-
32	浄誓寺	柄式	1533	B類	A類	c類	1類	-	b類	1類	-	-
33	浄誓寺	埋込式	1543	A類	B類	c類	1類	C類	b類	1類	A類	b類
34	浄誓寺	柄式	1548	B類	A類	c類	1類	C類	b類	1類	-	-
13	宝聚院	柄式	1564	A類	B類	c類	1類	C類	b類	1類	A類	a類
26	西光寺跡	柄式	1571	A類	B類	b類	2類	D類	a類	1類	A類	b類
35	浄誓寺	柄式	1574	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	A類	b類
14	宝聚院	埋込式	1575	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	A類	a類
6	松尾山麓庚寺	柄式	1578	B類	C類	c類	-	-	-	-	-	-
15	宝聚院	埋込式	1578	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	A類	b類
36	浄誓寺	柄式	1579	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	-	-
16	宝聚院	埋込式	1580	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	A類	b類
18	宝聚院	埋込式	1586	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	-	-
17	宝聚院	埋込式	1586	B類	C類	c類	2類	C類	b類	1類	A類	-
37	浄誓寺	柄式	1589	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	-	-
19	宝聚院	柄式	1589	A類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	A類	a類
20	宝聚院	柄式	1591	B類	C類	c類	2類	D類	b類	1類	-	-
27	西光寺跡	安置式	1627	C類	A類	b類	1類	E類	a類	2類	B類	a類
1	祖宝寺跡	安置式	1630	C類	E類	c類	1類	E類	a類	2類	B類	a類
21	宝聚院	安置式	1656	C類	D類	c類	1類	E類	b類	1類	B類	a類
2	祖宝寺跡	安置式	1656	C類	C類	c類	2類	E類	a類	3類	B類	a類
3	祖宝寺跡	安置式	1672	C類	D類	b類	2類	E類	a類	3類	B類	a類
4	祖宝寺跡	安置式	1693	B類	D類	b類	1類	C類	a類	1類	A類	a類
5	祖宝寺跡	安置式	1699	C類	D類	c類	1類	C類	a類	3類	B類	a類

表3 属性の省長



※表3では、その属性が主として使用されている時期を実線で示した。また、数が少ない場合や前後の時期状況から属性の消長が推定できる場合は破線で示した。